

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (たんぼぼ)		
所在地	岐阜県各務原市鵜沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 1年7月20日	評価結果市町村受理日	令和 1年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2012_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170500629-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	令和1年8月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、お一人おひとりの関わり時間を大切にしています。リビングからは中庭を眺める事ができ、中庭を囲む廊下で自分のお気に入りの場所を見つけて過ごしたり、自然の光を浴びて季節を感じることができます。中庭では季節ごとに野菜や花を育て、手入れや収穫などのお手伝いをして頂いたり、毎日の日課の中でもそれぞれの役割を見つけ、毎日の生活が楽しく生きがいのあるものとなるよう支援させて頂いています。法人の母体が医療機関であり、医師や看護師とも日常的に連携をとっております。また、法人内に口腔外科医、歯科衛生士も在籍しており、定期的に口腔内のチェックもさせて頂いています。外部からは大正琴などのボランティアの受け入れもしており、できるだけ地域とつながりながら暮らしていくことができよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは中庭のある造りで、採光に優れ、開放的で明るい。廊下の一角にテーブルと藤の椅子が置かれ、利用者がくつろいだり、面会に来た家族と話をする等、それぞれに落ち着いた時間を過ごしている。職員は理念を基に利用者のエンパワメントを高める観点から、さりげない声かけややさしい笑顔で接しつつ、利用者の状況に応じて食事の準備や洗濯たみなど日常的な生活の中で、できる役割をお願いする等して、それぞれの潜在可能性を引き出すよう取り組んでいる。医療機関を母体とした法人のホームであり、定期的な訪問診療や訪問看護も実施し、利用者の健康管理に取り組み等、医療連携が密に行われている。また、食事にも主治医と連携し、形態の変更を行う等、細かい配慮が行き届いている。今年度から、外出支援に力を入れ、毎月の行事として外出している。利用者の家族も一緒に行き先を選ぶ等、家族も参加しやすいように配慮することで、少しずつ家族の参加も増えてきているとのことである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。カンファンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。	法人理念を基に、毎年、事業所の理念を見直し、日々のケア実践に繋げている。名札や壁に理念を明示し、毎月のカンファレンス時に復唱している。職員は理念を共有し、利用者の声に耳を傾け、寄り添うケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会に加入し、市民清掃に参加している。近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はある。地域主体の活動への参加もしている。	地域の一人として自治会に加入しており、地域の清掃活動にも参加している。近隣の散歩では、挨拶を交わしたり、近所での野菜の購入等をする等、日常的に交流をしている。また、地域に開かれたホームとして行事やイベントには多くの地域の住民が参加しているとのことである。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていただく機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、ひやりはと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。	併設する法人の他事業所も参加し、定期的に運営推進会議を開催している。行政、地域包括支援センター、町内班長、家族の方々等、多くの参加がある。会議では、運営状況や利用者の生活状況等の報告や意見交換を行い、頂いた意見はケアに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。	運営推進会議に市担当課の職員や地域包括支援センターの職員が参加しており、顔の見える関係ができています。また、ホームの運営について相談し、助言を受ける等、協力関係づくりに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。	カンファレンス等で身体拘束をしないケアの具体的な対応について話し合いを持ち、職員間で禁止の対象となる具体的な行為について共通理解をし、身体拘束をしないケアに全職員が取り組んでいる。3要件に照らして、やむを得ない場合は、家族と話し合いを行い、同意書をいただいている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方がみえたため、その都度情報を共有し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信をできる場となっている。	家族会や夏祭り等の行事の機会を捉えて、意見を聞くよう努めている。また、運営推進会議の意見は必ず運営に反映させている。家族の面会時には声かけに心がける等、意見や提案等話しやすい雰囲気づくりに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。	月1回、法人の「戦術会議」に代表者が参加し、意見を表明し、そこで決められた決定事項等を運営に反映している。例えば、メリハリのある人材配置等、効率的な業務推進に向けた改善案を検討する等し、ホームの運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。法人内での口腔ケアの研修会には多くの職員が参加し実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にバックグラウンドアセスメントシートを記入して頂き、入居者様との会話に活用している。ご家族の協力も得ながら、自宅や教会、喫茶店、美容院等、馴染みの場所への外出もある。	本人が生活していく中で励みになっていたことや趣味・生活歴等、家族から入居時に確認している。「バックグラウンドアセスメントシート」から本人の大切にしていることを理解し、関係継続の支援に努めている。家族と一緒に、毎週日曜日に教会に礼拝に行き、食事をする人や馴染みの美容院へ外出する人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。	利用者一人ひとり、表情を見ながらゆっくりと会話をしている。日頃の支援での関わりや記録から得た気づきを職員間で共有し、思いや意向に沿うべく支援に取り組んでいる。一人ひとりの個性や特徴等に配慮しながら、意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。	毎月、全ての利用者のモニタリングを行い、ユニットカンファレンスを月1回開催して、計画を見直している。家族が付き添う受診日や家族の訪問が予定されている時等に合わせて担当者会議を行っている。本人や家族の意向を踏まえて介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、介護計画の実践の記録等は個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや隣接する託児所の幼児たちの来訪があり、入居者様の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。	毎週、定期的にかかりつけ医の訪問診療が行われている。他科受診等は、家族に同行をお願いしている。受診や往診の情報については、書面に記録したり、伝達する等して職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。	法人が医療法人であるため、医療との連携体制は構築されている。契約時に、重症化の際の対応や終末期の希望を聞き取った上で、身体状態が悪化した際には、その都度、家族に説明し、確認している。看取り時には、医師から説明を行い、多職種で方針を話し合い、看取りに伴う療養介護共同計画書を医師の説明のもとに同意をいただき、訪問看護の導入や職員チームで看取りケアを実施している。	看取りを行う前、職員への研修を行っている。今後、亡くなった後の遺族や職員への心のケアや振り返りを行う機会を作る等、より充実した看取りケアの体制作りに向けた取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いている。	定期的に、昼夜を想定した消防訓練を法人他施設や地域の人々と一緒に実施している。更に、他の施設や地域住民も誘導対応ができるよう協力体制の構築に取り組んでいる。	今後、地域の方等が避難を手伝うことを想定し、素早い避難が可能になるよう、例えば「車いす使用」等、避難に必要な情報を各居室の入り口に表示するなど工夫に向けた取り組みに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応している。 排泄の後始末が不十分な場合には、さりげなくフォローするようにしている。	利用者尊重の視点に立ち、利用者それぞれの状況、背景や人生観等を大切に支援に取り組んでいる。トイレの誘導時は、さりげない声かけに心がける等、プライバシーに配慮した対応に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度自由メニューを行っており、入居者様に食べたい物を伺い、できる限り季節を感じて頂ける物を提供している。お一人おひとりにできる事を手伝って頂いている。	冷たいものは冷たく、温かいものは温かく提供することを心がけている。デザートは利用者それぞれの食後に提供する等、食事が楽しみなものになるよう配慮している。また、食事は嚥下状態を医師と確認し、利用者一人ひとりに合わせた食事形態にして用意している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、できる限り、トイレでの排泄ができるよう自立に向けた排泄ケアを行っている。トイレは、自分でトイレのカギをかけることができるようになっており、プライバシーに配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は火・金曜日と週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。	1週間の予定を決めて入浴介助を行っている。また、入浴は本人のその時々の希望にできる限り添えるよう支援している。また季節の入浴剤や保湿剤等を用いて、楽しんで入浴してもらえよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬についてすぐに確認できるように薬箱に一覧表を貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に近隣へ散歩に出かけている。計画を立て、季節ごとに桜や紫陽花を見に出かけたり、喫茶店へ出かけたりなどしている。	今年度は、毎月、外出支援に取り組み、日頃の中庭散策や近隣散歩に加え、花見等に出かける等、季節感を身近に感じてもらっている。また、家族が参加しやすいよう行き先を選んでもらう等して、参加を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時の支払いや、買い物などの代金は一時的に立替をし、引き落としをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、庭の様子がよく見える明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。	板張りの床が温かい雰囲気を醸し出している。中庭には、季節を感じられる樹木や花等が植栽されており、それぞれのユニットから眺めることができる。また、採光に優れ、廊下にはソファが置かれており、利用者が落ち着ける空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファやテーブルを設置し、お好きな場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。	利用者の居室には、わかりやすい目印にもなるよう小窓に写真や置物等を飾っている。また、家族との思い出の写真や家具等が思い思いに配置され、利用者それぞれの生活スタイルが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、安全に移動が出来るように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170500629		
法人名	特定医療法人フェニックス		
事業所名	グループホームひだまり (れんげ)		
所在地	岐阜県各務原市鷺沼各務原町9丁目204-4		
自己評価作成日	令和 1年7月20日	評価結果市町村受理日	令和 1年11月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_1_2012_022_kani=true&i_gyosyoCd=2170500629-00&PrEfCd=21&Versi.onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	令和1年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ゆったりとした家庭的な雰囲気の中で、お一人おひとりの関わり時間を大切にしています。リビングからは中庭を眺める事ができ、中庭を囲む廊下で自分のお気に入りの場所を見つけて過ごしたり、自然の光を浴びて季節を感じることができます。中庭では季節ごとに野菜や花を育て、手入れや収穫などのお手伝いをして頂いたり、毎日の日課の中でもそれぞれの役割を見つけ、毎日の生活が楽しく 生きがいのあるものとなるよう支援させて頂いています。法人の母体が医療機関であり、医師や看護師とも日常的に連携をとっております。また、法人内に口腔外科医、歯科衛生士も在籍しており、定期的に口腔内のチェックもさせて頂いています。外部からは大正琴などのボランティアの受け入れもしており、できるだけ地域とつながりながら暮らしていくことができよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念の「Yes, we can!」の他に、ひだまり独自の「ゆったり、楽しく、寄り添って」という理念をあげている。カンファンスで読み上げをし、周知徹底をしてケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、市民清掃に参加している。近所の散歩や買い物などにより挨拶を交わすなどの交流はある。地域主体の活動への参加もしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	隣接している施設の秋祭りに参加し地域の方々と交流し認知症の方の理解をしていたり、機会がある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者状況、ひやりはと報告、日常生活の様子を伝えている。参加頂いた方からの意見や質問、提案についてはその後のサービス提供に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	不明な点があれば市に連絡をして確認したり、認定調査員として来所された際に入居者様の様子を伝えアドバイスを頂いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催したり、カンファレンスで話し合うなどし、理解し実践につなげている。玄関の施錠については、離設の恐れがある方もみえる為、安全の為に施錠はさせて頂いている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んだことをカンファレンスで話し合い、情報を共有し、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用される方がみえたため、その都度情報を共有し、理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書をもとに説明し、安心して入居して頂けるよう質問事項に丁寧に答えている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行い、質問・要望を伺ったり、ご家族同士での交流ができる機会を設けている。また、運営推進会議へ参加し発言して頂くことで、地域に向けて発信ができる場となっている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的で開催している法人の運営会議に各事業所の代表職員が出席し、意見・相談・提案をしあえる場となっている。得た情報や決定事項は各事業所に申し送られる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な上司と面談する機会が設けられており自己の取り組みの評価や目標設定のアドバイスを受けている。非常勤職員にも毎月評価シートがあり適切に評価を受けることができている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修・中途入職者研修・勉強会・クレド等で自己啓発を勧めている。法人外への研修も順次進めている。法人内での口腔ケアの研修会には多くの職員が参加し実践につなげている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内はもちろん、市が開催する研修や、不適切ケアの勉強会などへ参加し、交流する機会がある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時にご家族から伺った情報をもとに、ご本人とコミュニケーションを図り、聞き取りをしている。また、特に入居から1週間～1ヶ月は留意し見守り、安心できるよう寄り添い関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前に見学に来て頂き説明をさせて頂いたり、質問等に答えさせて頂き、不安を取り除けるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	法人内での「在宅支援会議」において、その時に必要なサービスの提供について検討し対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者様の得意な事・好きな事・できる事を理解し、施設での暮らしの中に活用するよう努めている。そうすることにより入居者様の「居場所」ができ、職員のやりがいにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の体調に応じた介護の相談や、必要物品(衣類・寝具・口腔ケア用品等)の購入の相談、行事への参加を無理のない範囲でお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にバックグラウンドアセスメントシートを記入して頂き、入居者様との会話に活用している。ご家族の協力も得ながら、自宅や教会、喫茶店、美容院等、馴染みの場所への外出もある。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の相性を把握しできる限りトラブルのないよう対応している。ゲームや運動、家事作業などお互いが関わりあえるような支援をし、孤立する方のないよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ転居される際に情報の共有を行っている。ご家族へ連絡をしご本人の容態や様子について伺い、今後について相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お一人おひとりとゆっくり関わる時間を持ち、日常の会話や様子、バックグラウンドからご本人の思いを把握できるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	A-1シート、サマリー、バックグラウンドアセスメントシート、ご家族からの聞き取り情報を活用し、スムーズな入居生活につなげている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎月のカンファレンス以外でも入居者様の状態変化が見られる時は、職員間で情報共有し、必要と思われる時は、医師や上司に報告・相談し指示を受けている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットカンファレンスを開催しケアサービス会議を行っている。ご家族からも日々の関わりの中でご要望を伺い、介護計画へ反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、介護計画の実践の記録等は個別に毎日記録している。特記事項は、日誌へ記入することで職員間で周知し、介護計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当グループホームで対応できかねるような時は、法人内の「在宅支援会議」において入居者様やご家族の状況変化に応じ必要と思われる支援が受けられるよう検討している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的なボランティアや隣接する託児所の幼児たちの来訪があり、入居者様の楽しみとなっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	関係医療機関がかかりつけ医となっており、週1回の往診がある。ご本人・ご家族が他医療機関のかかりつけを希望された場合には医療連携を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週金曜日に訪問看護師の来訪がある。看取り介護の場合には週2回、もしくは必要に応じ協力体制がある。その他体調不良時等は、隣接施設の看護師へ相談し対応が可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	法人内に「地域連携室」の設置があり医療連携ができる体制が整っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化や終末期における対応を説明しており、その時期が来た時には、ご家族・医師・看護師・介護職員との話し合いの場を設け終末期ケアに関する書類を作成し、チームで支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しており、医師への報告や救急車の要請時にスムーズに行えるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的実施し避難方法を学んでいる。地域の方へも訓練に参加して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは、その方の生活歴や性格等を考慮しながら対応している。 排泄の後始末が不十分な場合には、さりげなくフォローするようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床や就寝時間は、できるだけ本人の希望に合わせて生活して頂いている。 おやつや飲み物やレクリエーション等、選択できるように働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や要望に沿って1人の時間や食事時間、昼寝等を調整しながら生活して頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の希望に沿って美容院の予約を行ったり、選択が可能な方には、着替えの選択をして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度自由メニューを行っており、入居者様に食べたい物を伺い、できる限り季節を感じて頂ける物を提供している。お一人おひとりにできる事を手伝って頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量をチェックしている。入居者様に適した食事形態で提供する為、お一人おひとりの嚥下状態を常に観察し、医師・栄養士・看護師・STと連携を取って食事内容等の見直し・変更を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを毎食後に行い、磨き残しのある方のブラッシングや義歯洗浄等を行っている。2週間に1度歯科衛生士の来訪もあり。異常が見られる場合は法人内の口腔外科医師の協力体制もあり。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックをし、その方の排泄パターンを把握しトイレへお連れし、できるだけトイレでの排泄を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、乳製品等の提供や体操などで体を動かすことで便秘の予防に努めている。また、腹部のマッサージや排泄時の姿勢等声かけをして自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は火・金曜日と週2回となっている。その中で、ゆっくり入りたい方や、早めに入浴をしたい方などできる限り要望に沿って支援している。季節が感じられるよう、菖蒲湯やゆず湯など楽しんで頂けるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活リズムが整えられるよう、できるだけ日中の活動に参加を促し、夜間の良眠につなげられるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の薬についてすぐに確認できるように薬箱に一覧表を貼っている。体調の変化があった時は医師に報告をし早めの対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	得意な事や好まれる事を把握し、楽しみが持てる生活をして頂けるよう支援している。ユニット内だけではなく、他ユニットの方と交流する場を設けるなどし気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日に近隣へ散歩に出かけている。計画を立て、季節ごとに桜や紫陽花を見に出かけたり、喫茶店へ出かけたなどしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルにつながらないよう、現在はお預かりをしていない。外出時の支払いや、買い物などの代金は一時的に立替をし、引き落としをさせて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族、ご本人の希望があれば電話の取次ぎを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的で温かい雰囲気を感じて頂けるよう、板張りの床だったり、庭の様子がよく見える明るく開放的な窓で季節が感じられる作りになっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースにソファやテーブルを設置し、お好きな場所で過ごすことができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に今まで使い慣れた家具や写真、作品等の思い出の品を持ち込んで頂いている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下に手すりを設置しており、安全に移動ができるように配慮されている。又、居室の入り口のボックスに馴染みの物や作品、写真等を飾って頂けるようになっている。		